



ナースレター

2016年7月

No. 51

発行責任者

川崎協同病院 看護管理室



新人看護師 3か月のまとめ

7月23日(土) 2016年度 新入看護師3ヶ月のまとめ研修会を行いました。

午前中は、実地指導者が講師となり急変時の対応・記録の書き方・挿管の介助・急変時のシミュレーションを行いました。

(当日急遽参加していただいた藤原 Dr, 松本 Dr, 井上 Dr ありがとうございました)

毎日忙しい中、講義内容を考えてくれた実地指導者のおかげで、新人は急変時のイメージが付き、緊張感をもって演習が出来ました。

「ハリーコールの時、傍観者ではなく新人でもできることはたくさんあるので進んで行動していきたい」と前向きな意見が多く聞かれました。



午後のグループワークでは、同じような悩み・学びを共有し、新人は「落ち込むことも多かったが、同期から頑張る気力がもらえた」

「実地指導者がまっすぐ新人と向き合ってくれ、一緒に頑張ろうと言ってくれたのが嬉しかった」

実地指導者からは、「看護がしたい」「患者の思いに寄り添い関わりたい」と言ってくれたのが本当に嬉しかった。実現できる環境を作ってあげたい」

「忙しく業務に追われることが多かったが、見本になれるように意識し身を引き締めたい」と感想がありました。

一日を通し、和気あいあいとした雰囲気ですべてのまとめが終わりました。今年の新入看護師17名、実地指導者12名、すくすくと育っています。

次のステップである6か月のまとめ(10月15日)に向けて、さらに大きく成長してゆく姿を皆さん優しく見守ってください。

教育担当師長 長島 玲子



合格おめでとうございます

昨年6月に定年退職された菅野まり子さんはその後『認知症看護認定看護師』をめざし学校に通われていました。

そして今年、見事合格されました。おめでとうございます!!

今後、私たちと一緒に再びお仕事をさせて頂けることとなった菅野さんからみなさんへ「認知症看護認定看護師」についてお知らせです。

認知症看護認定看護師に出来る事



皆さんこんにちは! この4月より「認知症看護認定看護師」として再就職しました菅野まり子です。

「認定看護師」と聞いても『日常看護の中でどんなことをするのか?患者さんとどうかかわるの?』と疑問に思っている方もいらっしゃると思います。現在日本看護協会では21分野で認定看護師の養成を全国の看護大学などで行っています。「認知症看護」については2008年より養成が開始されました。今年7月現在で認定看護師数は21分野の総数17,443人になり、うち認知症看護認定看護師は810人です。

「認知症看護認定看護師」の役割は 1) 認知症の正しい知識の普及 2) 病院・施設に働く看護師への認知症者対応の相談、指導 3) 認知症について本人、家族からの相談を受け援助する。4) 自身が認知症者に関わり対応のロールモデルとなる・・・ということです。

私たちの働く川崎市も高齢化が進み今後間違いなく「認知症」を患う方が増加してきます。医療に働く私たちが認知症について正しい知識と対応を身に付けて患者さん、家族の方に確かな支援が出来るよう私も微力ながら力を出していきたいと思っています。病棟で、外来で認知症の症状で対応に困った時はぜひ声をかけてください!! 7階師長室に毎週月・水・木曜日に勤務しています。どうぞよろしくお願いいたします。